

# まなびや

特別展関連資料

## 唱歌と童謡

### 時を超えて出逢う～懐かしい音楽教科書～

Q:「ミハルス」ってなに？

Q:なぜ、カスタネットは「青と赤」？

【児童数の変化と教育楽器の普及】



音楽の授業 (S22福井市宝永小学校)



教育用カスタネット



ミハルス

ミハルスとは小学校の音楽の教師であり、舞踊家でもあった千葉躬治が昭和8年頃に、リズム訓練、あるいは身体を動かしながら扱うことを念頭において考案した打楽器のことです。スペインのカスタネットや、沖縄舞踊に用いられる四つ竹をヒントに作られ、より扱いやすくするため、二枚の板を蝶番でつなげ、上下の板の外側にゴム紐をつけて指が入れられるようになっていきます。そのゴム紐に親指と中指を差し込み、ワニの口の

昔の日本の初等教育における音楽教育は、一九四一(昭和16)年まで教科名を「唱歌」と称していて歌唱中心で進められていました。教育楽器といえば、ほとんど教師が示範伴奏に使用するオルガンやピアノでした。昭和33年の第2次学習指導要領改訂により、教育楽器が普及していきまし

### 『カスタネット』の誕生！

S18 簡易楽器指導の実際



ようにパクパクさせることで音がなり、音がよく響くように板の先に、太鼓鉦がつけられていたようです。戦前には広く学校の音楽教育で扱われ、昭和18年に出版された国民学校教師のための「簡易楽器指導の実際」にもミハルス

♪教育楽器の種類は時代ごとに移り変わりがあります。現在では、一般にリコーダー、ハーモニカ、カスタネット、タンバリン、鍵盤ハーモニカ、オカリナ、木琴、鉄琴、電子楽器、合奏用アコーディオンなどが認知されています。



依頼があり、ミハルスを改良して男の子用に「青」、女の子用に「赤」の2種類が製作されました。その後、ベビーブームなどを迎え男女別の赤・青それぞれの在庫管理が複雑になりました。そこで、考案されたのが片面が赤、もう片面が青のカスタネットでした。「赤が下、青が上にして装着する」という演奏のルールも決められたそうです。



昭和30年頃、クラシック音楽の楽譜を販売する会社が、新事業として学校へ楽器の販売を始めました。当時、楽器を売るためのおまけとして、音楽家の肖像画が描かれたカレンダーを配布したのがきっかけだったそうです。

### 楽器のおまけだった？

昭和30年頃、クラシック音楽の楽譜を販売する会社が、新事業として学校へ楽器の販売を始めました。当時、楽器を売るためのおまけとして、音楽家の肖像画が描かれたカレンダーを配布したのがきっかけだったそうです。

### 音楽室に肖像画？

どうして音楽室には肖像画があるのでしょうか？理科室にはガリレオはいないし、家庭科室に平野レミさんはいませんよね？ベートーヴェン、シューベルトの顔を見ながらの方がより深く音楽を理解できるからなのでしょうか？